

I. CAP(子どもへの暴力防止)プログラム提供事業



1. 主な活動実績

今年度、エンパワメントかながわが神奈川県内の子どもとおとなに届けた CAP ワークショップは、89 回となった。

①寄付によって CAP プログラムを提供する仕組みづくりとして、「1 万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン」事業を引き続き行った。

・2020 年度は県内の小学校で、6 校 14 クラスの小学生人の子どもの CAP を提供した。

2014 年 9 月に開始した本キャンペーンでの受講者総数は、8898 人となった。

②川崎市内での中学生向け暴力防止プログラムについて、2 月 14 日に 6 度目となる「いのちキャンペーン」として、川崎市教育文化会館からオンラインで開催した。当日は、CAP プログラムの紹介、調査報告(トヨタ財団しらべる助成「子どもの権利課×かわさきの未来プロジェクト」、パネルディスカッションとして「今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないために～子どもの権利でおとなが繋がる～」を実施。パネリストとして西野博之氏(認定 NPO 法人フリースペースたまり場理事長、宮越隆夫氏(川崎区地域教育会議議長)、鈴木健氏(ふれあい館副館長)、大野恵美氏(川崎市教育委員会)、圓谷貴氏(弁護士・神奈川県少年友の会)がこれまでの活動も踏まえて発表した。オンライン参加者 63 名。

③行政委託事業として、川崎市から委託を受け小学校 10 校 31 クラス、中学校 2 校 11 クラスで実施した。

2. 年間ワークショップ数

89 回を実施。(計画は、110 回)

		計画	実績
1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン	子ども向け(小学生)	30	14
	おとな向け	10	6
川崎市教育委員会	子ども向け(小学生)	33	31
	子ども向け(中学生)	11	11
	おとな向け	13	11
母校にCAPを贈ろうプロジェクト	子ども向け(小学生)	2	0
	おとな向け	1	0
その他	子ども向け(小学生)	3	7
	子ども向け(中学生)	2	0
	子ども向け(就学前)	2	3
	おとな向け(保護者・教職員)	3	6
	合計	110	89

※教職員向けは対象が教職員のみで開催数とします。

3. 行政委託事業

4. 「1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン」

概要: 支援者からの寄付 1 万円で交通費等の経費を賄い、1 クラス(40 人まで)の子どもたちとその学校の保護者や教職員に提供する。受講した子どもが 1 万人に達した時点で終了する。(2014 年 9 月開始)

対象: 神奈川県内の小学校

クラスごとに子ども向け CAP プログラムを提供する。(1 学年のクラス数まで応募可能)

実施条件: 子ども向け CAP プログラムの他に、おとな向け(保護者または教職員向け)を実施する。

受講した子どもの感想を寄付者に贈ることに協力いただく。

実施校名・受講者数などをエンパワメントかながわの HP 等で公表する。

実績: 20 年度は、以下の 6 校 14 クラスで実施。

本キャンペーン開始からこれまでに 8898 人の小学生が受講した。

- 10 月 26 日 横浜市立桜岡小学校(2 年生 3 クラス) 11 月 18 日教職員向け
- 11 月 26 日 横浜市立芹が谷小学校(3 年生 2 クラス) 同日保護者向け
- 11 月 27 日 横浜市立藤塚小学校(4 年生 2 クラス) 11 月 20 日保護者向け
- 12 月 2 日 横浜市立万騎が原小学校(3 年生 2 クラス) 11 月 10 日保護者向け
- 12 月 9 日 平塚市立真土小学校(4 年生 3 クラス) 8 月 24 日保護者・教職員向け
- 1 月 12 日 茅ヶ崎市立汐見台小学校(6 年生 2 クラス) 2 月 13 日保護者向け

決算: 今年度に CAP キャンペーンに集まった寄付額は、217,416 円。前年度期首残高 810,853 円と合わせて 1,028,269 円。今期 200,000 円を使用し、828,269 円を翌期に使用することとする。

2014 年 9 月以降 2021 年 3 月末までの総寄付額は 4,818,269 円となった。

5. 主催イベント

日時	タイトル・内容	会場	参加人数
11 月 10 日(火) 10 時から 12 時	放課後支援員等子どもに関わるスタッフ向けオンライン研修	オンライン(ZOOM)	6 人
11 月 19 日(木) 9 時半~11 時半	公開 CAP おとな向けワークショップ」	川崎市教育文化会館	2 人
2 月 14 日(日) 14 時~16 時	いのちキャンペーン 2021~川崎からオンライン	川崎市教育文化会館からオンライン	63 人

Ⅱ. デートDV予防・啓発事業



1. 主な活動実績

- ① 日工組社会安全研究財団から助成を受け、「デート DV 電話相談事業および相談員養成事業」を実施した。相談員養成講座においては 27 名が修了し、24 名が登録した。
- ② 赤い羽根福祉基金から助成を受け、デート DV110 番リモート相談事業を 9 月から実施し、LINE 相談を導入した。
- ③ デート DV110 番では、オンラインを活用しブラウザ電話と LINE の二つのツールを使用し週 2 日7時間の相談を受け付けた。年間の相談件数は、電話 435 件、LINE391 件、あわせて 826 件となった。
- ④ 男女共同参画センター横浜からの委託を受け、横浜市内中学校・高等学校に対し、16 回のワークショップを提供した。
- ⑤ ワークショップの提供においては、かながわ男女共同参画センター、川崎市人権・男女共同参画室、茅ヶ崎市、東京都港区などから委託を受けて中学校・高等学校・大学で実施した。
- ⑥ かわさき市民しきん「いしずえ」より助成を受け、川崎市内中学校でのワークショップを実施した。

2. 年間ワークショップ数および相談開設回数

58 回を実施。(計画は 66 回)

		計画	実績
男女共同参画センター横浜	中学生・高校生・教職員向け	20	16
かながわ男女共同参画センター	中学生・高校生・大学生向け	4	7
川崎市人権・男女共同参画室	中学生・大学生・教職員向け	6	7
かわさき市民しきん「いしずえ」	中学生向け	0	2
その他	中学生向け	2	3
	高校生向け	3	2
	大学生向け	2	2
	おとな向け(教職員・一般)	15	6
養成講座	電話相談員	12	12
リボン・プロジェクト	高校生向け	2	1
	合計	66	58

相談事業 102 開設(計画は 102 回)

デート DV110 番	デートDVについてなら誰でも	102	102
-------------	----------------	-----	-----

3. 行政委託事業

①男女共同参画センター横浜「デートDV防止啓発」事業

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会(男女共同参画センター横浜)より委託を受け、横浜市内の中学校(5校)、高校(2校)、特別支援学校(2校)において生徒向けワークショップを実施した。

②神奈川県立かながわ男女共同参画センター「デートDV防止講座」事業

かながわ男女共同参画センターより委託を受け、県内の中学 4 校、特別支援学校 2 校において、デートDV予防ワークショップを実施した。

③その他の行政委託事業

川崎市人権・男女共同参画室より委託を受け、中学 1 校、大学 2 校、専門学校 1 校において、デート DV 予防ワークショップを実施した。

茅ヶ崎市より委託を受け、大学 1 校においてワークショップを実施した。

東京都港区より委託を受け、高校 1 校においてワークショップを実施した。

長野県塩尻市より委託を受け、高校 1 校においてワークショップを実施した。

静岡県富士市より委託を受け、中学 1 校においてワークショップを実施した。

④おとな向け講演会および研修事業

内閣府、埼玉県、プラン・インターナショナル・ジャパン等から依頼を受け、オンラインシステムを活用した教職員向け等の研修を実施した。福島県より依頼を受け、対面での研修を実施した。

4. 助成金事業

①公益財団法人日工組社会安全研究財団助成金事業「デート DV 電話相談事業および相談員養成事業」

相談員を養成するため、オンラインでの養成講座を開催し、修了者の中から 24 人が登録した。

引き続き 2 回線対応で週 2 回(毎週火曜日 3 時間土曜日午後 4 時間)を運営し、4 月から 2 月 9 日までのフリーダイヤルでの相談件数は 395 件だった。

決算:

収入	助成金	1,582,075	支出	人件費	1,010,000 (雑給他)
				通信費	252,075
				謝金	300,000
	自己資金	233,229		所費	253,229
	収入合計	1,815,304 円		支出合計	1,815,304 円

②赤い羽根福祉基金「10 代のためのデート DV 相談体制構築事業」

10 代からのデート DV 防止することで、DV や虐待の連鎖を断ち切るため、10 代の子どもたちが気づきやすく、相談しやすい体制を構築する。リモートで相談を受けるためのカルテシステムおよびコールセンターを構築し、ZOOM オンライン会議システムを活用した相談体制を創設し、9 月より LINE 相談を導入、2 月 13 日からはブラウザ電話での通話相談を開始した。LINE の導入により、相談件数が 8 月までより 2.3 倍に増やすことができた。。

決算:

収入	助成金	4,890,000	支出	人件費	1,023,000 (相談員)
				委託費	791,000 (カルテ・コールセンター他)
				その他人件費	1,927,550
	自己資金	78,532		所費	1,226,982
	収入合計	4,968,532 円		支出合計	4,968,532 円

Ⅲ. 各種人権啓発事業



1. 主な活動実績

①すきっぷ(子どもの護身法)プログラム

- ・横浜市西区より委託を受け、区内小学校 4 校 10 クラスで子ども向けプログラムを実施した。
- ・横浜市内の継続校 1 校での 1 年生にプログラムを実施した。
- ・主催事業として川崎市教育文化会館で公開講座 1 回を開催した。

②特別支援学級に通う子どもへの暴力防止(ほっと)プログラム

- ・知的障がいのある子ども向け入所施設で、小学生向けと中高生向けを実施した。中高生にはデート DV 防止をテーマに取り入れた。

③保育士研修等

- ・東京都足立区、港区等の保育施設にて、虐待予防の保育士研修を実施した。

④各種人権啓発プログラム

- ・神奈川県教育委員会から委託を受け、高校および特別支援学校 3 校 4 回の教職員向けの人権研修を実施した。
- ・川崎市男女共同参画センターからの委託を受け、女性のためのサポートグループ相談事業にて 5 回事業を実施した。
- ・東京都世田谷区教育委員会から依頼を受け、オンラインでの人権研修を実施した。

⑤高校カフェ/相談員派遣

- ・公益財団法人よこはまユース、多文化共生教育ネットワーク神奈川の委託を受け、横浜市立横浜総合高校と相模向陽館高校に相談員を派遣した。

2. 年間ワークショップ数および相談開設回数

39 回を実施。(計画は、38 回)

		計画	実績
すきっぷプログラム	子ども向け・おとな向け	10	13
ほっとプログラム	子ども向け	2	2
子育てがラクになるワークショップ	おとな向け	2	1
虐待予防の保育士研修	保育士	2	6
各種人権研修プログラム	教職員等	12	10
講演会等	教職員・社員・一般等	10	2
サポートグループ	一般	0	5
	合計	38	39

相談事業 140 回を実施(計画は、70 回)

高校カフェ・コーディネーター派遣	県内高校	15	25
------------------	------	----	----

オンライン相談	保護者	0	2
LINE 子どもしゃべり場	18 歳までの子ども	55	113
	合計	70	140

3. 行政委託事業

①神奈川県教育委員会校内人権研修事業

神奈川県教育委員会から委託を受け、高校および特別支援学校の教職員向けの人権研修として参加体験型研修を3校4回実施した。

②女性のためのサポートグループ相談 委託事業

川崎市男女共同参画センターすくらむ21からの委託で、パートナーとの関係に悩む女性を対象とした、全5回のサポートグループを運営した。参加者延べ39名が参加した。

決算:

収入	委託金	224,000	支出	諸謝金	140,000
				交通費	37,318
				所費	46,682
	収入合計	224,000 円		支出合計	224,000 円

4. 主催イベント

・主催事業として川崎市教育文化会館で公開講座1回を開催した。

日時	タイトル・内容	会場	参加人数
11月7日(土)	すきっぷ公開講座	川崎市教育文化会館	5組10人

5. 助成金事業

①公益財団法人ウェスレー財団「コロナ危機下にある「子どもの心」を守るプロジェクト」

子どもの気持ちをおとなが受けとめることの大切さを呼びかける動画(2分49秒)の動画を作成配信し、アンケート調査をした。子ども向けLINE相談を4月27日から8月31日まで全54回開設した。保護者対象オンライン相談室を設置、6件の相談を受けた。

決算:

収入	支援金	769,683	支出	委託費	200,000
				業務委託費	564,000
				通信費	5,6830
	自己資金	120,000		人件費	120,000
	収入合計	889,683 円		支出合計	889,683 円

②ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金(第2フェーズ)コロナ禍にある「子どもの心」を守るプロジェクト

10月から3月まで毎週月、金曜日(19時から21時)全46回子どもLINE相談子どもしゃべり場を開催し447件の相談を受けた。広報広告としてLINE広告、タイムライン告知、SNS投稿、カード配布を実施した。

相談データを集計し「子どもしゃべり場報告書」を 500 部作成した。

決算:	収入	助成金	904,000	支出	人件費	681,000
		自己資金	857		諸謝金	60,000
					所費	163,757
	収入合計		904,857	円	支出合計	904,857
						円

IV. 人材育成事業

1. 主な活動実績

- ①デート DV 対応スキルを学ぶ基礎研修を主催 5 回、全てリモートにて実施した。
- ②デート DV 予防プログラム実施者養成講座(中学生向け、高校生向け、大学生・教職員向け)をそれぞれ 1 回、リモートにて実施した。
- ③デート DV 相談対応専門研修および研究コースをそれぞれ各 2 回、リモートにて実施した。
- ④2020 年 4 月、2019 年 4 月、2018 年度にデート DV 相談対応専門研修研究コースを修了した者の中から 11 名を、デート DV 専門相談員(通称:TOTS Team of Teen's Supporters)として認定した。
- ⑤デート DV 専門相談員派遣モデル事業として、神奈川県および東京都内の高校・大学に 11 回の派遣を行った。

2. 年間実施回数

40 回を実施。(計画は、38 回)

		計画	実績
デート DV 対応スキルを学ぶ基礎研修	6 月 21 日、7 月 5 日、9 月 6 日、10 月 25 日、2 月 25 日	8	10
デート DV 予防プログラム実施者養成講座	中学生向け 10 月 4 日・11 日	4	4
	高校生向け 10 月 31 日・11 月 1 日・11 月 15 日	6	6
	大学生・教職員向け 12 月 19 日・20 日	4	4
デート DV 相談対応専門研修	連携・演習コース 7 月 18 日・19 日 9 月 12 日・13 日	8	8
	研究コース 11 月 22 日・23 日 1 月 16 日・17 日	8	8
	合計	38	40

相談事業 デート DV 専門相談員派遣 11 回

TOTS(デート DV 専門相談員派遣)	高校・大学等	0	11
----------------------	--------	---	----

3. 助成金事業

①日本フィランソピー協会「暴力事案による高校中退をなくすためのデートDV 専門相談員派遣事業」

デートDVの暴力事案に巻き込まれた高校生に、デートDV 専門相談員を派遣し、被害生徒および加害生徒が適切な支援を受け、高校中退を食い止めることで暴力と貧困の連鎖を断ち切る。

首都圏の高校4校で、被害生徒および加害生徒10名、および保護者や教職員にプログラムを実施した。

収入	寄付金	1,000,000	支出	諸謝金	768,000
	自己資金	496,925		その他所費	628,925
収入合計		1,496,925	円	支出合計	
				1,496,925 円	

4. 主催事業

日時	タイトル・内容	会場	参加人数
6月21日(日) 10時~17時	デートDV 対応スキルを学ぶ基礎研修	オンライン(ZOOM)	12人修了
7月5日(日) 10時~17時	デートDV 対応スキルを学ぶ基礎研修	オンライン(ZOOM)	10人修了
7月18日(土)・19日(日) 10時~17時	デートDV 相談対応専門研修(ABCD)	オンライン(ZOOM)	7人修了
9月6日(日) 10時~17時	デートDV 対応スキルを学ぶ基礎研修	オンライン(ZOOM)	11人修了
9月12日(土)・13日(日) 10時~17時	デートDV 相談対応専門研修(ABCD)	オンライン(ZOOM)	2人修了
10月4日(日)・11日(日) 10時~17時	中学生向けデートDV 予防プログラム 実施者養成講座	オンライン(ZOOM)	5人修了
10月25日(日) 10時~17時	デートDV 対応スキルを学ぶ基礎研修	オンライン(ZOOM)	6人修了
10月31日(土)・11月1日(日)・15日(日) 10時~17時	高校生向けデートDV 予防プログラム 実施者養成講座	オンライン(ZOOM)	6人修了
11月22日(日)・23日(祝) 10時~17時	デートDV 相談対応専門研修 研究コース(EFG)	オンライン(ZOOM)	2人修了
12月19日(土)・20日(日)	大学生向け・教職員向けデートDV 予防 プログラム実施者養成講座	オンライン(ZOOM)	4人修了
1月16日(土)・17日(日) 10時~17時	デートDV 相談対応専門研修 研究コース(EFG)	オンライン(ZOOM)	3人修了
2月21日(日) 10時~17時	デートDV 対応スキルを学ぶ基礎研修	オンライン(ZOOM)	9人修了

V. 調査研究事業

1. 主な活動実績

川崎市川崎区を中心に、子どもの権利を中心に地域のつながりを再生するために、子どもの権利や子どもへの暴力についての関心の低さの背景にある要因を明らかにする。発信が足りないのか、発信の方法が受け取り手にとって適切でないのか、あるいは受け取り手が知りたくない、生活することで精いっぱいなどの状況があるのかなどの理由を探る。調査結果を活かし、子どもの権利についてのおとなの関心を高め、子どもの権利を保障し、暴力防止のために協力しあう体制を構築し、さらには、子どもの権利を伝える担い手を発掘していく。

2. 助成金事業

①2019 年度トヨタ財団国内助成プログラムしらべる助成「子どもの権利xかわさきの未来プロジェクト」

川崎区内でのCAPおとなワークショップの前後でアンケート調査を実施し、子どもの権利、子どもへの暴力、川崎子どもの権利条例の認知度を調べるとともに、CAPおとなワークショップの効果を測った。2月14日にいのちキャンペーンイベントにて報告を行うと共に、子どもの権利をキーワードにおとなが繋がるために何ができるかを話し合った。また、報告書(82頁 300部)を作成した。

決算:

収入	助成金	1,000,000	支出	諸経費	448,000
	自己資金	0		人件費等	552,000
	収入合計	1,000,000	円	支出合計	1,000,000
					円

VI. 広報事業

1. 定期的、継続的な情報発信

ネット上からのタイムリーな情報発信を行った。

- ・団体 HP と啓発サイトの最新ニュースを随時更新し、Facebook ページ、Instagram、twitter、LINE のタイムライン等の SNS と連携することで発信の拡大を行った。
- ・月 1 回のメルマガを HP のニュースと連携させ、第 48 号～第 59 号を購読者へ配信した。
- ・イベントや講座チラシに QR コードを付けることで紙媒体と WEB を連携させることができた。

2. 集客のための WEB 広告配信

- ・Facebook 広告 (Instagram 広告と連携) と Google Ad Grants (Google for Nonprofits プログラムとして NPO 対象に Google 広告費を助成) により全国に向けて講座告知やプログラムの周知を行った。Google 広告は 2020 年度 \$19,319.94 (3~4 キャンペーン稼働、クイック率 10.56%) の助成を受けた。
- ・「実施者養成講座」「いのちキャンペーン」「デート DV 相談対応専門研修」のランディングページを WEB 広告と連携させ参加者獲得につながった。
- ・LINE 公式アカウント (子どもしゃべり場) の友だち追加広告により新規友だちが 308 人追加された。

3. 寄付獲得のための発信

- ・団体 HP 上に「モノで寄付をする」ページを新設

“ブックオフの「キモチと。」”および“いいことシップ”に登録、連携しサイト上より不要になったものを活用し寄付につなげる仕組みを確立。さらに SNS から呼びかけを行い、全国からの寄付獲得につながった。

4. 啓発サイトの運営

- ・「デート DV110 番相談サイト」およびデート DV 予防啓発サイト「それってデート DV なんじゃない？」の最新ニュース欄にイベント告知等の情報を発信した。

<アクセス数>ページビューよりカウント

サイト	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
団体ホームページ	*54,585 件	49,441 件	48,976 件	49,578 件
デート DV110 番相談サイト	25,217 件	25,976 件	30,301 件	24,021 件
それってデート DV なんじゃない	25,075 件	29,287 件	27,352 件	5,695 件

*Google アナリティクスの不具合で 11/21～12/4 まで計測なし

5. デート DV 予防啓発のためツール制作の依頼を受け作成

- ・相模原市より「デート DV 予防啓発カード」15,000 枚
- ・東京都中野区より「びいまいせるふ」1,400 部
- ・国分寺市より「デート DV の基礎知識」4,000 部
- ・長野県塩尻市より「びいまいせるふ」1,000 部
- ・京都市より「デート DV の基礎知識」20,000 部
- ・吹田市より「びいまいせるふ」5000 部

6. メディア掲載

日刊紙、フリーペーパー、情報サイト等の各メディアからの取材、また、サイトの監修、筆依頼を受け掲載された。

<エンパワメントかながわの活動>

- ・5 月 神奈川新聞 :LINE で SOS を
- ・5 月 しんぶん赤旗:LINE 子どもしゃべり場開設
- ・9 月 しんぶん赤旗:デート DV 電話相談 LINE でも可能に
- ・11 月 福島民報 デート DV 防止へ講演
- ・12 月 朝日新聞・読売新聞・タウンニュース:人権賞に選出
- ・2 月 神奈川新聞・東京新聞:いのちキャンペーン

<取材協力/執筆>

- ・「育友」専修大学育友会事務局 春号(161)デート DV、知っていますか？
- ・Gender Hand Book VOL.2 ボクらは誰も傷つけない「男らしさ」の謎を探る冒険
(発行 公益財団法人 京都市男女共同参加参画推進協議会)
- ・東海大学発行 大学生のためのセクシャルマナー読本(デート DV110 番の紹介)

<監修>

- ・セイシル

Ⅶ. リボン・プロジェクト



1. 趣旨

暴力のない社会を目指していくために、エンパワメントかながわが特に必要であると考えた子どもたちにワークショップを提供していく「リボン・プロジェクト」。趣旨に賛同してくださった方からの寄付金、会員の意思で捻出した資金等を活用する。団体 HP に実施報告を掲載し、広く知らせる。

2. 実施報告

①高校生(定時制)へのデートDV予防プログラムの提供

デート DV 予防プログラム(学年単位 60 分)を実施することにより、広く暴力について、人権とは何かについて知り、人と人がお互いに大切にしよう(尊重しよう)関係について考えることができた。デート DV にならない劇のシナリオをたくさんのグループが作成し劇を演じた。

日時:12 月 15 日

場所:神奈川県内高等学校

参加者: 高校 2 年生 76 名

支出: 5,842 円

Ⅷ. 組織運営

1. 2020 年度賛助会費は個人 46 口、団体 5 口、正会員は 29 名となった。

2. 毎月事務局会議を開催した。

開催実績 4 月 8 日、5 月 8 日、6 月 5 日、7 月 8 日、8 月 11 日、9 月 10 日

10 月 8 日、11 月 16 日、12 月 7 日、1 月 7 日、2 月 9 日、3 月 15 日、30 日

3. 理事会開催実績

5 月 29 日 第 1 回理事会 各自宅より ZOOM にて

7 月 12 日 第 2 回理事会 各自宅より ZOOM にて

9 月 10 日 第 3 回理事会 各自宅より ZOOM にて

12 月 16 日 第 4 回理事会 各自宅より ZOOM にて

3 月 25 日 第 5 回理事会 各自宅より ZOOM にて

4. 学生インターン、ボランティアの受け入れ

専修大学よりインターンシップ 2 名の学生を受け入れた。8 月から 9 月 1 名、2 月から 3 月 1 名

ドットジェイピーよりインターンシップ 6 名の学生を受け入れた。8 月から 9 月 3 名、2 月から 3 月

ボランティア 8 月より 1 名、12 月より 6 名

5. 青年部発足

2020 年度学生インターン生とボランティアの有志が青年部を立ち上げた。

6. NPO 法人デート DV 防止全国ネットワークの事務局を担い、デート DV 防止スプリング・フォーラムの開催の準備等を行った。